

Ⅲ 事業運営に関する計画

Ⅲ－１ 施設運営の理念

運営方針等

地域密着型の北山田漁港

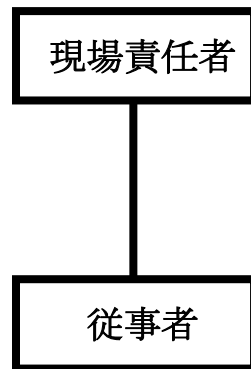
～地域と共存する漁港施設～

北山田漁港については、漁業活動の場としてだけでなく、古くは人々の交流拠点として発展してまいりました。これは地元北山田をはじめ、地域の生活スタイルや文化の形成に大きく寄与してきたものであり、地域社会と北山田漁港が共に発展してきたものであります。

私たちは、漁港施設での地域の人々との交流を通じて消費者のニーズを知るためのよい場としていくとともに、漁港施設の有効的な活用により地域に根ざした北山田漁港の運営を行います。

また、漁港施設の美化に努めることにより、人々の心の安らぎとゆとりを守るとともに、漁場環境の保全を通じて琵琶湖の豊かな生態系を守り次代に引き継ぎます。

Ⅲ－２ 職員配置



現場責任者および従事者を1名ずつ配置し、危機管理体制に万全を期するとともに、施設利用者に支障がないような体制とする。

Ⅲ－３ 人材確保・育成

(1) 人材確保の考え方

施設運営にかかる人材については、組合員の中から適材適所に配置する。

(2) 人材育成・研修体制の考え方

自然環境や時代の流れ（新しい漁業技術など）を敏感に受け止め、取り入れることが必要であり、先進地への研修等による新技術の開拓によって組合員のスキルアップを行うとともに、琵琶湖環境に対する意識高揚を図る。

Ⅲ－４ 職員の労働条件

組合員の労働条件については、別紙の就業規則に基づき運営を行う。

なお、賃金については、組合の総会によりその額を決定するものとする。

Ⅲ－５ サービスの質の確保・向上に関する考え方

組合員および仲買人等の漁業関係者に対しては、日常の漁業活動や売買の円滑な実施のため、事務手続きの一部を請け合うとともに、漁獲量や販売高等の情報提供を行う。また、一般利用者に対しては、琵琶湖上の航行等の情報提供を行う。組合員や利用者からの意見を随時徴収し、対応可能なものは即応し、サービスの質の確保・向上に努める。

Ⅲ－６ サービスの提供内容について

魚釣りやボート目的の一般利用者が来訪した際は、必要に応じて施設利用案内を行う。また、会館の会議室使用料および小船・ボートの停泊に係る料金を徴収する。

Ⅲ－7 危機・安全管理に関する考え方

防犯・防災への対策

事故や災害などを未然に防ぐために、施設利用者に啓発活動を行うとともに、現場責任者および従事者による巡回を行う。

万が一、事故や災害が発生した場合は、当組合の組合長に報告するとともに、市農林水産課へ連絡し、迅速な対応に努める。

緊急時の対応

避難誘導・・・あらゆる場面での事故や災害を想定し、事前に避難経路を確保し、施設利用者にもわかるようにしておく。

意思疎通・・・緊急時には誰もが同じ行動を起こせるように、危機管理に関する考え方を統一し、組合員に周知徹底を図る。

緊急連絡網・・・関係機関への連絡先を緊急連絡網として作成し、誰にでも一目で解るよう見やすい場所に掲示する。

簡潔な報告・・・緊急時には、内容を簡潔・明瞭に伝えることが重要であることから、六何の原則(5W1H)に基づく報告ができるように組合員に周知徹底を図る。

Ⅲ－８ 個人情報保護の対策

個人情報の漏洩については内部からの故意、過失による漏洩がほとんどであるといわれている。このことは、組合への信用に関する大きな問題であり、組合員全員が個人情報保護に対する認識を深めておく必要がある。

個人情報とは

個人に関する

氏名

住所

生年月日

性別

電話番号

など

個人情報保護の対策

- ・ 事業の内容、規模を考慮した適切な（必要最低限）個人情報の収集・利用を行う。
- ・ 個人情報の保管については保管に適する場所に必ず保管し、利用については利用の目的、利用者を把握できる体制をとる。
- ・ 個人情報保護に関する法令および市条例を遵守する。

Ⅲ－９ その他の取組み

その他、特に計画している取組みはありません。